

カワビタキの習性

樊龍鎮・張青霞・王臣軍

山西省歴山国家級自然保護区

訳 福井和二

紅尾水鳩カワビタキ (*Rhyacomis fuliginosus*) は別名は鉛水鷄あるいは、燕石青などともいわれ山間溪谷によく見られる鳥で、滞在期間中は大量の農林害虫を捕食する関係で、かねてより研究されている鳥である。1993～1998年の4～10月の間、筆者らは山西省歴山国家級自然保護区においてカワビタキの習性を観察したので、以下に報告する。

観察地域と方法

歴山国家級自然保護区は山西省南部中条山東麓の、翼城、泌水、陽城、垣曲の四県に接する総面積24800hm²で、主峰歴山は標高2321m、域内は森林に覆われ灌木が密生し、豊かな水に恵まれている。

調査地には大河(針葉、広葉の混交林、1100～1400m)と下川(広葉林および灌木疎林1500～2000m)の両地区を選定し、カワビタキの渡り時期、個体群密度、繁殖生態、食性等の調査を行った。

調査方法：2km/hのラインセンサス法で、左右各30m以内の鳥影、鳴き声を記録し、毎年5月に2回(1993～1998年、両調査地で合計24回、48km)調査した。

渡り時期：4月最も早い渡来日と10月最終観察日を記録。

6年間の調査ルート、調査人員、調査時間、調査方法は同一状態で行なった。カワビタキの生息確認、個体群密度はルート上に営巣繁殖地点、採食地点、一時休息地、ねぐらの4項目の調査によった。

渡りの時期

観察によりカワビタキは夏鳥として山西省に毎年4月22日～27日の間に渡来し、10月15日～20日に渡去する。滞在期間174～180日間、この鳥の渡りは季節的に大きな変化はなく比較的安定している。

生息環境

過去6年の観察でカワビタキの利用する主な生息環境はつぎのように分けられる。

営巣繁殖地：溪谷の川辺、断崖絶壁、川辺に突出し、苔の生えた場所。

採食地：主に溪谷の川辺、山地の小さい谷の岸辺、川岸に突き出た断崖、民家、学校の便所、穴蔵(煉瓦作り)など。

休息場所：溪流の大きな岩、橋脚の窪み、断崖の苔むした岩棚、谷川の岸辺等。

ねぐら：谷すじの岩の間、断崖絶壁の岩棚、川辺に突き出た岩の下および学校の便所、民家の穴蔵。

個体群密度

カワビタキの個体群密度は典型的な山地溪谷で、過去6年5カ月の調査結果によると0.792(0.625～1.00)羽/kmであった。

繁殖

カワビタキの繁殖期は5～7月で、5月の初めにつがい形成が行なわれ、囀りが多く“huid-tck-tck”と鳴き、雌雄の追尾行動が活発となる。常に飛ながら鳴き、止まったときは尾

をびんと張り、上下に揺り動かす。雄は雌に向かいながら尾をねじるように叩く。その後、雌が雄を回避する行動が2、3日続いた後、少しずつ受け入れるようになり、営巣場所の選定へとつがい行動の範囲が広がってゆく。

最も早い巣造りは5月12日、巣造りには6~7日を要し、主に雌が行なう。営巣場所は溪谷の岩壁にある岩棚、あるいは溪谷に近い民家の廊下、便所、寺院、橋梁等である。巣材は、外壁に繊維状の樹皮、蘚苔、ハマスゲ、エノコログサ等を使用し、内装は牛馬など家畜の毛、鶏その他鳥類の羽毛などで構成されている。巣は深い碗状をなし、精巧に作られ、すっきりした形状であるが容易に壊れない。

9個の巣を測定した結果は、巣高12.2(11.3~13.0)cm、巣の深さ4.9(4.2~5.6)cm、外形11.0(9.7~11.9)cm、内径5.6(4.7~6.7)cm、重量20.73gであった。

巣造り完了後1日おいて産卵し、毎日1卵ずつ、3~6卵平均4.4卵を産卵した。1卵の産卵に要した時間は19~27分であり、産卵期間は抱卵を行わず、夜も巣の中でねぐらをとらない。最も早い産卵は5月22日で、繁殖は年1回である。

卵は楕円形、緑白色あるいは藍緑色の地色に赤褐色の斑点があり、鈍端部に斑点が密集している。抱卵前の15卵を測定したところ、平均重量1.80(1.60~2.30)g、長径18(17~20)mm、短径12(11~14)mmであった。

抱卵はもっぱら雌が担当し、雄はテリトリーの防衛にあたり、外部の同種の侵入に際しては敢然と駆逐に奮闘する。雌が巣を空けた時に卵の下で温度を測定したところ、37.8°Cあった。抱卵は12~13日、7巣30卵の孵化率は93%である。

孵化したばかりの雛は全身無毛の赤裸の淡紅色で、わずかに頭頂、背、肩等に灰黒色の絨毛が生え、球の様な腹をした体を横たえて、大きい頭と細い頸を懸命に振っている。孵化後の第1日目は親鳥は餌を与えず、抱卵している時のように、雛を抱いて保温している。2日目から雛が餌をくわえてきて給餌が始まる。93-3号巣、雛4羽、4日齢について6:00~8:00間の観察では、雌親の給餌が15回、雄親が9回で、雛1羽あたり6回の給餌が行なわれた。8日齢の同一条件での観察では雌親19回、雄親13回、雛1羽あたり8回の給餌であった。この観察により雛の成長とともに食物の要求が増え、給餌回数が増加することがわかる。雛は12~13日で巣立ちする。巣立ちした幼鳥は水辺の草叢に分散し、親鳥の鳴き声に応じて給餌を受け、通常6~7日後に独立する。

食性

雛の頸部結紮法と解剖後胃内容確認8検体によりカワビタキの食物を表1に示す。これによりこの鳥の5~7月の間の食物の大部分が農林害虫であり、したがって保護が必要である。

表1 カワビタキの食物

食物種	数量	頻度%	重量/g	重量%	食物種	数量	頻度%	重量/g	重量%
クロバエ	8	13.56	2.0	21.51	ハナガ	4	6.78	0.2	2.15
スズメバチ	8	13.56	1.5	16.13	カメムシ	3	5.08	0.2	2.15
イエバエ	6	10.17	1.0	10.75	トンボ	3	5.08	1.0	10.78
ウシバエ	6	10.17	1.2	12.00	バッタ	3	5.08	0.5	5.38
長腿蚊子*	5	8.47	0.5	5.38	コメツキムシ	2	3.39	0.2	2.15
夜蛾*	5	8.47	0.5	5.38	ヨトウガ	2	3.39	0.3	3.23
コガネムシ	4	6.78	0.2	2.15	総計	59	100.00	9.3	100.00

*和名不明